

シラタマノキ ツツジ科
Gaultheria miqueliana Takeda

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



道後山 2009.6.21/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：高地の風衝地のごく限られた場所に生育し、崩壊などにより個体数が減少しつつある。

■**特徴**：高地の日当たりのよい風衝地に群生する常緑低木。高さは5–20 cm。葉は互生で楕円形、円頭–鈍頭、鈍鋸歯縁。花期は6–7月、葉腋や枝の先に2–6個の下向きの花をつける。花は白色で壺形。果実は白色で径約1 cm。和名は果実の色による。県内では大山と道後山の2カ所で生育するが、岩礫地のため、岩場の風化で礫が崩れ落ちるのに伴い群落が減少しつつある。

■**分布** 県内：大山、道後山。 県外：北海道、本州（中部以北）、三瓶山。

■**保護上の留意点**：踏みつけ防止。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：鷲見寛幸

コヨウラクツツジ ツツジ科
Menziesia pentandra Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2005.5.27/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：氷ノ山山頂部、岡山県との県境稜線付近、大山に孤立的に生育し、個体数はごく少ない。

■**特徴**：県内では大山・氷ノ山のブナ帯に分布する落葉低木。高さ1–2 m。葉は互生し、枝先に輪生状に集まってつく。楕円形–長楕円形、表面と縁と裏面脈上に毛がある。花期は5–6月。花は暗赤褐色、壺形で枝先に下垂する。ブナ帯尾根上の明るい岩場、チシマザサの入っていない場所でリュウブ、ナナカマド、ネジキなどと混生する。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町、倉吉市、琴浦町、大山町。 県外：北海道、本州、四国、九州。サハリン。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域の自然林の保護。採取防止。

■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

ツガザクラ ツツジ科
Phyllodoce nipponica Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2010.6.9/撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：県内では大山上部の風衝草原や岩礫地に分布が限られ、群落は小さく、生育基盤は脆弱。

■**特徴**：亜高山帯の岩礫地に自生する常緑小低木。高さ10–20 cm。幹の下部は多分枝し、横にはう。先端は直立、枝分かれする。葉は互生し、線形で密生、長さ5–8 mm。縁に微小の鋸歯があり、表面は濃緑色で光沢、無毛。裏面は白色の微毛が密生する。枝先に長さ2–2.5 mmの花柄を伸ばし、横向きに花を付ける。花期は大山では5月下–6月中旬。枝先に数個、横向きに花をつける。萼は5裂、釣鐘形の花冠の先端は5浅裂する。おしべは10本。果実は扁球形。大山では稜線部の日当たりのよい岩礫地に自生。

■**分布** 県内：大山。 県外：本州（東北中部から大山）、四国。

■**保護上の留意点**：山地森林の保護、保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：9,11,73.

執筆者：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

ヒカゲツツジ ツツジ科

Rhododendron keiskei Miq.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



若桜町 2006.4.25/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の限られた岩場や崖地にのみ自生。個体数少なく、生育基盤が脆弱で絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：山地の岩場や崖地に生育する常緑低木。高さ1 m内外。葉は互生、長楕円形で薄い革質。先は尖り、先端に腺状の突起がある。葉柄は4 mmほど。枝先では輪生状につく。花期は4-5月、枝先に2-4個の花がつく。色は淡黄色。広い漏斗型で径5 cmほど。ブナ帯の急峻な岩上に孤立的に生育する。和名のように日陰を好むとはいえない。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ブナ帯尾根岩場の保全。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

ダイセンミツバツツジ ツツジ科

Rhododendron lagopus Nakai var. *lagopus*

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：—



2009.5.15/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：大山に多く、変種のユキグニミツバツツジよりもやや高標高側に多い。多くはないが、県内東部にも点在する。

■**特徴**：山地の林内や林縁に生育する落葉低木。よく分枝し、高さは1-3 mほどになる。葉は枝先に3枚輪生し、広菱形で鋭頭、基部はくさび形。葉柄は長さ5 mm前後で淡褐色毛が葉身裏面主脈から葉柄基部まで密生する。変種のユキグニミツバツツジは葉柄の下半部が無毛。花期は4-5月。紅紫色で径約4 cm、5深裂する。

■**分布** 県内：点在。低地近くの丘陵地ではみられない。県外：本州（中国地方）、小豆島。ユキグニミツバツツジの分布は秋田県-鳥取県。

■**保護上の留意点**：山地自然林の保護、保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：永松 大

ゲンカイツツジ ツツジ科

Rhododendron mucronulatum Turcz.var. *ciliatum* Nakai

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



日野町 2010.4.15/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地が県南西部に限定され、生育地、個体数ともに限られている。また園芸用採取により個体数も減少している。

■**特徴**：花崗岩山地の日当たりのよい露岩上に生育する落葉低木。樹高1 m内外で若枝は軟毛が密生。葉は狭楕円形、花は開葉前の4月中旬に咲き、径3-4 cmで紅紫色。花はミツバツツジ類より色が濃く、開花時期も少し早い。花弁に丸みがある。ミツバツツジ類よりさらに乾いた岩場を好む傾向がある。

■**分布** 県内：日野町、日南町。県外：本州（中国地方）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：園芸用の採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

キシツツジ ツツジ科
Rhododendron ripense Makino

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



日野町 2008.5.8 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：分布北限。県内での自生地は日野川中流域に限られる。10年前から個体数の変化はあまりみられない

■**特徴**：川岸の岩場などに生育する半常緑の低木。幹はよく分枝し高さ1 m内外。若枝には長毛と腺毛がある。葉は互生。葉柄に淡褐色軟毛が密生。春葉と夏葉があり、春葉は長楕円形、長さ3–5 cm。両面に剛毛がやや密生。夏葉は狭楕円形または倒披針形で長さ1.4–4 cm、両面に剛毛が生える。花期は4–5月、枝先から新葉とともに1–3個の花を開く。花柄にはやや密に長毛があり、腺毛がまばらにまじる。萼片は5枚。花冠は5中裂、淡紅紫色、広漏斗形で径4–5 cm、上側3片に斑紋がある。蒴果は狭卵型、径1 cm。

■**分布** 県内：日野川中流域。県外：本州（中国地方）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。日野川川岸の自然植生保護、河川改修には配慮を要する。

■**文献**：78.

執筆者：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

バイカツツジ ツツジ科
Rhododendron semibarbatum Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2009.6.18 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の岩棚状の崖地、数カ所にのみ自生が確認されている。生育基盤が脆弱。

■**特徴**：山地の林縁や崖地に生育する落葉低木。高さ1–3 m。若枝や葉柄には腺毛と短毛とが混生する。葉は枝先に集まってつき互生、楕円形で薄い。先は鋭く尖る。花期は6–7月、枝の先端部につく。花弁は5枚、色は白色で上部に紫色の斑点がある。広漏斗形で径約2 cm。県内での生育環境は谷沿いの岩棚状の崖地で、ネジキ、ナツハゼ、コバノミツバツツジ、ヒサカキなどと混生する。

■**分布** 県内：鳥取市用瀬町、智頭町。県外：北海道（南部）、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：谷沿いの自然植生保護。

■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

アラゲナツハゼ ツツジ科
Vaccinium ciliatum Thunb.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2006.8.17 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部、鳥取砂丘と浦富海岸にて自生確認があるが、個体数少なく、生育基盤が脆弱。

■**特徴**：低地の林縁に生育する落葉低木。高さは2 mほどになり、枝葉多く分枝する。葉は広卵形で先は短く尖り、全縁で下面に白毛が密生する。鋸歯はない。花期は6月、釣鐘形で白色、水平に横並びに咲き、赤色の苞が目立つ。果実は球形で白い粉をかぶったまま黒く熟す。砂丘地の尾根状地や海岸岩場でヒサカキ、ナツハゼ、ハマゴウなどと混生し、低木のやぶをつくる。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市・福部町。県外：本州（福井県以西の日本海側）、九州（北部）。

■**保護上の留意点**：海岸の開発による地形変化や全面刈り払いに注意。

■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

コケモモ ツツジ科

Vaccinium vitis-idaea L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



大山 2009.6.26/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：大山と氷ノ山の山頂部にわずかに分布する常緑低木。種子生産はほとんどなく、個体群も縮小ぎみ。存続に強い懸念がある。

■**特徴**：高山の乾きぎみの草地や岩場に生育する常緑の小低木。茎は地をはい、高さは20 cm程度。葉は互生し、革質で長楕円形。先は丸い。裏面には淡い黒点が散生する。花期は6-7月、鐘形で帯紅白色の花をつける。花冠の先は4裂。径1 cmほど。紅色球形の液果をつける。氷ノ山では群落の広がりがいよいよ小さくなり、開花も確認されておらず、絶滅のおそれが非常に高い。大山の個体群は少数の結実もあり、多少ましな状況。

■**分布** 県内：若桜町、大山町、琴浦町。県外：北海道-九州の高山（四国と九州ではまれ）。北半球の寒帯に広く分布。

■**保護上の留意点**：採取防止。自生地の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54.

執筆：永松 大

サクラソウ サクラソウ科

Primula sieboldii E.Morren

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



日野町 2010.5.5/撮影：野津 昭

■**選定理由**：県内では西部の山間地数カ所に自生するのみ。保全活動の成果があがりつつあるが、全体として状況の好転には至っていない。

■**特徴**：落葉樹林の畦畔や湿潤な草地に生育する小型の多年生草本。春植物に近い生活史をもつ。地下茎により栄養繁殖する。葉は根生し、軟毛が密生、葉脈に沿ってしわ多数、鈍重鋸歯縁。花期は4-5月、茎頂に散形状に花をつける。花冠は5裂し淡紅色。長花柱花、短花柱花の2花型があり、同花型間の受粉では結実しない。しばしば同一クローンからなる群落を形成し、種子繁殖が困難な場合がある。里山の利用放棄が衰退に影響したと考えられ、溪畔の人工林伐採により、生育改善の自生地もある。

■**分布** 県内：江府町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。保全活動の継続と里山の維持管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：96,97.

執筆：野津 昭（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

リュウキュウマメガキ カキノキ科

Diospyros japonica Siebold et Zucc.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2009.10.25/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の限られた地域にのみ生育し、個体数が少ない。すぐに絶滅する状況にはないが、生育適地が減少ぎみ。

■**特徴**：丘陵地の日あたりのよい谷間や斜面に生育する落葉高木。雌雄異株。葉は長楕円形、全縁で縁は波打つ。表面は濃緑色でつやがあり、下面帯白色。葉柄は長さ1-3 cmとカキの仲間ではとびぬけて長い。花期は6月、つぼ形の花で雌花は1個ずつ、雄花は2個ずつつき、色は黄白色。果実は径2 cmほど、秋に橙-黒紫色に熟すが、渋い。県内では低山帯の谷沿い、礫まじりの湿潤な斜面に孤立的に生育する

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市河原町、八頭町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：谷沿いの自然植生保護。

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

クロバイ ハイノキ科
Symplocos prunifolia Siebold et Zucc.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



南部町 2001.5.9 / 撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：県内では南部町金華山（金花山）に少数が自生している。すぐに絶滅の可能性はないが、他に自生が知られておらず、希少性が高い。

■**特徴**：山地に生育する常緑高木。葉は互生し、長楕円形で長さ5-8 cm、濃緑色で革質、光沢があり低鋸歯縁、両面無毛。花期は5月上中旬。前年枝の葉腋から総状花序を出し、白色の小花を多数つける。果実は狭卵形で長さ6-7 mm、秋に黒熟する。金華山（標高361 m）の地質は凝灰角礫岩でしばしば絶壁が露出。山頂に熊野神社があり、常緑広葉樹の自然林で覆われている。クロバイは、山頂から中腹にかけてのやや乾燥地に自生し、20本程度を確認。

■**分布** 県内：南部町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。朝鮮半島南部。

■**保護上の留意点**：自生地 of 自然林保護。保全意識の向上。

■**特記事項**：県指定天然記念物「金華山熊野神社社叢」

■**文献**：20,61.

執筆者：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

シオジ モクセイ科
Fraxinus platypoda Oliv.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2006.6.16 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内東部を中心に、溪谷の限られた場所に孤立的に分布する。関東など太平洋側に多く、日本海側では少ない。

■**特徴**：山地の溪谷に生育する落葉高木。高さ25 m、径1 mにもなる。雌雄異株。葉は7-11小葉からなる大きな奇数羽状複葉。葉柄基部がふくらむ。花期は4-5月、花弁はない。10月頃、翼のある果実をつける。シオジは洪水などで不安定な溪谷沿いに不連続に分布する。純林状になることもあるが面積は小さく、サワグルミやトチノキ、カツラなどと混生することも多い。大岩がごろごろした傾斜のある溪谷部に、枝下が長く、通直で大径のシオジの姿はすばらしい。ただし県内ではそのような場所はほとんどない。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町、琴浦町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の自然構造保全と再生。

■**文献**：68.

執筆者：永松 大

チトセカズラ マチン科
Gardneria multiflora Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



湯梨浜町 2010.9.13 / 撮影：伊澤寛治

■**選定理由**：県内中部で、照葉樹二次林の急峻な林縁に分布する。森林発達で林内の開花が減り、林縁の過剰な刈り払いも個体群を圧迫している。

■**特徴**：低山の丘陵地斜面の比較的水分条件のよい場所に生育する常緑のつる性木本植物。茎は緑色で樹木にはい登る。葉は対生し狭長楕円形で革質。先端は鋭く尖る。花期は6-7月。上部の葉腋から花柄を伸ばし複数の花をつける。花冠は黄色で深く5裂、花は径1 cmほど。暗い林内の個体はほとんど成長が見られず、葉脈沿いに白っぽい紋様が入ることがある。ギャップや林縁でよく成長し、開花結実する。道路管理で林縁の個体群が刈り払われている。

■**分布** 県内：湯梨浜町、倉吉市。県外：本州（兵庫県-中国地方）。中国中南部、台湾。

■**保護上の留意点**：特に林縁部の個体の刈り払いに注意。

■**文献**：—

執筆者：伊澤寛治

ハウライカズラ マチン科

Gardneria nutans Siebold et Zucc.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2004.7.15/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：全国的に多い種ではないが、県内でも自生確認地は数えるほど。個体数も少なく、人為的干渉により絶滅のおそれがある。

■**特徴**：低地の照葉樹林内に生育する常緑のつる性木本植物。枝は緑色で無毛。葉は対生し、卵状楕円形で全縁、長さ5–10 cm。革質で厚く光沢がある。花期は7月、葉腋から1個が下垂する。花冠は白色、5裂して反り返る。液果は球形で赤熟する。チトセカズラによく似るが、花の色と数などで区別する。和名はその稀産さから中国の伝説にある蓬莱山にちなむとされる。

■**分布** 県内：鳥取市、北栄町。県外：本州（千葉県以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：低地の照葉樹林保護。刈り払いに注意。

■**文献**：—

執筆：永松 大

アイナエ マチン科

Mitrasacme pigmaea R.Br.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



琴浦町 2010.8.22/撮影：松田万由美

■**選定理由**：県内では2カ所で確認されているのみで、個体数もわずか。人為的管理がなくなると、環境変化により存続が危ぶまれる。

■**特徴**：日当たりのよいやや湿った草地に生育する繊細な1年生草本。草丈10 cmほど、茎には毛がある。葉は対生で下部に2–4対、長楕円形か卵形で長さ7–15 mm、幅3–6 mm。花期は8–9月、葉腋から伸びた花茎の先に花が散状に数個つく。花冠は鐘型、白色で4裂、径3 mmほど。萼も鐘形で長さの1/3まで4裂する。全国的に生育適地が減少しており、各地で絶滅が危惧されている。県内の自生地は神社参道の管理された林縁と除草管理されているやや湿った水田畦。

■**分布** 県内：琴浦町、米子市。県外：本州、四国、九州。太平洋諸国。

■**保護上の留意点**：日当たりがよく、やや湿った生育適地の除草管理。除草剤の使用禁止。

■**文献**：—

執筆：松田万由美

イヌセンブリ リンドウ科

Swertia tosaensis Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



江府町 2004.10.7/撮影：清末幸久

■**選定理由**：県内の確認地は1カ所のみで個体数わずか。湿原の減少、環境変化により、全国的にも減少している。

■**特徴**：湿原周辺の湿った場所に生育する越年生草本。地下に根茎があり群生する。分枝し、高さは5–30 cm程度。葉は倒披針形でセンブリに比べると幅が広い。花冠は白色で青紫色の条線があり、径約15 mm。江府町の自生地では10月頃に開花する。冬期にはスキーゲレンデとなる立地に自生しておりコース整備による圧雪や表面かく乱の影響が考えられる。比較的わかりやすい場所に生育し、園芸採取のおそれもある。定期的に草刈りがなされている場所の生育個体は矮小化している。

■**分布** 県内：江府町、米子市。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の改変防止。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：104.

執筆：清末幸久

ミツガシワ ミツガシワ科
Menyanthes trifoliata L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



三朝町 2009.4.22/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内での自生地，個体数ともごくわずか。互いに隔離されており，生育状況は悪化しつつある。

■**特徴**：通常は亜高山帯の日当たりのよい池沼，流水沿い，湿原にしばしば群生する夏緑性の多年生抽水草本。地下茎は横走，太円柱形。葉は互生，3出複葉で基部は鞘状。小葉は長楕円形-菱形状楕円形，鈍頭，肉厚，長さ約10 cm。花期は初夏，花茎約30 cmの総状花序をつくる。花は帯紫白色，5裂平開し白長毛が密生する。和名は大型の小葉をカシワの葉に見立てたもの。胃腸薬として利用された。異型花柱性であり，長花柱花と短花柱花が同一地に生育することが種子繁殖の条件となる。

■**分布** 県内：鳥取市，三朝町。県外：北海道，本州，九州。西南日本では隔離分布。

■**保護上の留意点**：採取防止。池沼，湿原植生の保全管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：42,46.

執筆：日置佳之

ヒメシロアサザ ミツガシワ科
Nymphoides coreana (H.Lév.) H.Hara

鳥取県：野生絶滅 (EW)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



米子水鳥公園(栽培) 2005.9.22/撮影：神谷 要

■**選定理由**：2005年に中海・安部処分地で発見された株を米子水鳥公園が系統保存のため栽培している。自生地はすでに埋め立てられ野生絶滅。

■**特徴**：ため池や水田，休耕田の浅い水域に生育する多年生の浮葉植物。葉は楕円から円心形で幅2-4 cm。葉の表面に紫褐色の斑状模様があることがあり，裏には粒状の腺点がある。花は白色で，花冠は5裂する。花弁の縁に毛があり，アサザよりもガガブタに似るが，径は1 cm以下で極めて小さい。花期は7-9月，花が咲くときだけ花を空中に出し，花が終わると水中に束状に果実を作る。結実率が大変よく，放出されたたくさんの種子が水に浮く様子が見られる。

■**分布** 県内：野生絶滅。県外：北海道，本州，四国，九州，大東島。

■**保護上の留意点**：生育環境の回復，汽水域の保全。解放水面の残った休耕田で生育している可能性がある。地道な調査が必要。

■**文献**：—

執筆：神谷 要

ガガブタ ミツガシワ科
Nymphoides indica (L.) Kuntze

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取県博所蔵標本：岩美町 1954.8.15 土井 進

■**選定理由**：1954年に岩美町で採集された標本があるが，自生していた池がなくなり，現在は自生確認地がない。

■**特徴**：ため池などに群生する多年生の浮葉植物。異型花柱性。浮葉の下には長い茎があり，浮葉直下から新しい茎が伸びて葉を展開する。葉は大型で径7-20 cm。花期は7-9月。白色で径1.5 cmほど。花冠の裂片内面に長い毛が多数ある。全国的には特に貴重種ではないが，池沼の改修や水質変化により，減少傾向。

■**分布** 県内：現在は確認地なし。県外：本州，四国，九州。世界の温帯域に広く分布。

■**保護上の留意点**：湿地の保護，保全。

■**文献**：27.

執筆：永松 大

アサザ ミツガシワ科
Nymphoides peltata (S.G.Gmel.) Kuntze

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



次城県霞ヶ浦 2002.8/撮影：神谷 要

■**選定理由**：米子市で過去に生育確認があったが、近年は見つかっておらず、絶滅したものと考えられる。

■**特徴**：ため池や湖沼などに群生する多年生の浮葉植物。地中の地下茎から水中茎を伸ばし、卵型-円形の葉を水面に展開する。地下茎から直接伸びる葉もある。葉は径4-10 cmほど、低い鈍鋸歯があり、縁が波状になる。花期は6-9月、黄色の花をつける。県内では湿地が少なく、アサザもともと多くはなかったかもしれない。文献15では、県内東部に分布点が記されているが、県内では情報なし。全国各地で減少が言われている。

■**分布** 県内：絶滅。 県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：湿地の保護，保全。

■**文献**：15。

執筆：永松 大

キジョラン ガガイモ科
Marsdenia tomentosa C.Morren et Decne.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



倉吉市 2010.6/撮影：長 兼巳

■**選定理由**：県内の自生地はわずか。自生地は照葉樹林の林縁で、刈り払いやつる切りが生育に影響している可能性がある。

■**特徴**：照葉樹林の林縁に生育する常緑性の木本つる植物。若い幹は緑色、古くなると木質化して灰褐色になる。葉身は円形で直径は10 cm前後、先は急に鋭く尖る。花期は8-9月。葉腋から短枝を出し、淡黄白色の小花を散形状につける。アサギマダラ幼虫の食草。種子には白く長い冠毛があり、これを髪を乱した鬼女に、厚い葉をランに見立てたとされる。大きな葉で樹木に絡みつくが、木を覆いつくすようなことはない。暖地に多い。

■**分布** 県内：湯梨浜町，倉吉市。 県外：本州（関東以西），九州，沖縄。朝鮮半島南部。

■**保護上の留意点**：照葉樹林の保全，地域住民への啓発。

■**文献**：—

執筆：森本満喜夫

コカモメヅル ガガイモ科
Tylophora floribunda Miq.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



伯耆町 2011.9.11/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内東部で過去に観察記録があったが、近年の確実な記録はない。今後の調査をふまえて絶滅危惧評価を行うことが必要。

■**特徴**：山野の草地に生えるつる性の多年生草本。茎は細長く伸びて他の植物にまきつく。葉は対生し、長さ3-6 cm。薄く、三角状卵形-卵状披針形、先は尖り、基部は浅心形。花序はよく分枝し、まばらに散開。花は小さく、径4-5 mmで暗紫色。里山の草刈り管理されている場所に残るとされるが、全国的に希少化が進んでおり、兵庫県をはじめ、多くの県で絶滅危惧にあげられている。(追記)本リストとりまとめ後の2011年夏に伯耆町で個体が見つかった。

■**分布** 県内：伯耆町。 県外：本州，四国，九州。朝鮮，中国。

■**保護上の留意点**：草地での生育調査が必要。

■**文献**：4。

執筆：永松 大

フナバラソウ ガガイモ科*Vincetoxicum atratum* (Bunge) C.Morren et Decne.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取市 2004.6.9/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では海岸の岩場にまれに見られ、個体数も少ない。花期には際立って目立つため、採取されることがある。

■**特徴**：山野の草地に生える多年生草本。県内では海岸の草地に分布。茎は直立して高さ60 cm内外になり、密に軟毛がある。葉は卵状楕円形、急鋭突頭、基部は円形、裏面に密に軟毛がある。花期は5-6月、濃紫色、葉腋に多数つく。袋果は船の腹部に似ている。県内では岩場の草地に生育するが、高茎草本が茂って個体が衰弱し、花付きが悪くなった場所がある。県内の草地に生えるスズサイコは葉が狭披針形で両端がとがり、花は短黄緑色。

■**分布** 県内：鳥取市，湯梨浜町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：海岸岩場周辺の草地の保全管理。採取防止。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

スズサイコ ガガイモ科*Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市福部町 2010.7.28/撮影：谷亀高広

■**選定理由**：県内では主に草刈り維持されている草地に分布するが、管理放棄による生育適地の減少にともない、減少している。

■**特徴**：日当たりのよいやや乾いた草地に生育する多年生草本。茎は細く直立し1 m内外。葉は対生，線形-披針形，先はとがり，全縁，長さ10 cm内外。花期は7-8月，淡黄緑色。花冠は細く5裂，星状形。袋果は下垂し，長さ7 cmぐらい。和名はつぼみの丸い形を鈴に見立てたもの。県内では，砂丘地の山側の草地，スキー場やグランド観覧席の草地，山間棚田の草地などに見られるが，高茎草本や樹木が生えると消失する。

■**分布** 県内：鳥取市福部町，三朝町，倉吉市，琴浦町，伯耆町，米子市。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：草地の維持と草刈時期の考慮。

■**文献**：13.

執筆：坂田成孝

ホソバオオアリドオシ(ホソバニセジュズネノキ) アカネ科*Damnacanthus indicus* Gaertn.f. var. *lanceifolius* Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2007.2.13/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の自然性の高い照葉樹林下に点在する。社叢などで見つかることが多いが、モウソウチクの侵入が懸念される場所もある。

■**特徴**：シイ，タブ中心のやや湿った照葉樹林下に生育する常緑小低木。根は数珠根状にならない。葉は革質，長楕円形で長さ2-6 cm，鋭頭，基部は円形。刺針は葉より短い。花期は5月。花は白色，漏斗状，裂片は卵形。果実は球形，赤熟。花と果実が同じ時期につく。県内での類似種，アリドオシは葉が小さく7-20 mm，卵形。刺針は葉より長い。オオアリドオシは刺が短く，葉の1/2以下，葉は1-5 cm。ジュズネノキは確認されていない。三朝町の自生地は照葉樹林伐採後の雑木林谷間，岩の多い場所。

■**分布** 県内：鳥取市，湯梨浜町，三朝町，倉吉市，大山町，米子市，南部町。県外：本州（福井・静岡県以西），九州。

■**保護上の留意点**：自然性が高い照葉樹林の保護。

■**文献**：77.

執筆：坂田成孝

オオバノヨツバムグラ アカネ科

Galium kamtschaticum Steller ex Roem. et Schult. var. *acutifolium* H.Hara

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2008.6.27/撮影：坂田成孝

■選定理由：大山、氷ノ山、扇ノ山の尾根や灌木林下に局所的に分布する。生育基盤が脆弱。

■特徴：亜高山の針葉樹林中に生育する多年生草本。県内では大山、氷ノ山山頂部のキャラボク帯上部灌木林下、ブナ帯上部の尾根部に生育する。茎は直立、無毛、高さ20 cm程度。葉は4枚輪生、楕円形で大きく、先端とがり、明瞭な3脈がある。花期は6-7月、淡黄緑色、4裂、径2.5-3 mm。果実に長いかぎ状の毛が密生する。県内平地から山地にふつうのヨツバムグラは葉の中脈が目立ち、花の径は1-2 mm。ヤマムグラは葉が4枚輪生するが1対ずつ大きさが異なる。

■分布 県内：扇ノ山、氷ノ山、大山山系。県外：北海道、本州、四国。

■保護上の留意点：大山、氷ノ山のキャラボク生育地、ブナ林を含む自然植生の保護。

■文献：—

執筆：坂田成孝

キヌタソウ アカネ科

Galium kinuta Nakai et H.Hara

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2010.7.27/撮影：藤原文子

■選定理由：県内では孤立的に点在し、絶滅した場所もある。それぞれの集団も小さく、最大の自生地でも100個体程度。

■特徴：山地の林縁、岩隙、沢沿いの岩礫地などに生育する多年生草本。茎葉直立し、無毛、高さ約30-60 cm。葉は4輪生し無柄。卵状披針形で尾状突頭、3脈が顕著な点から容易に見分けられる。花期は7-8月、茎の上部に小花多数の円錐花序をつける。花は白色で小さく花冠は4裂。日南町ではスギ林内ではここ数年増加がみだが、林縁ではススキやササが繁茂し、分布範囲や個体数が減少した。

■分布 県内：若桜町、三朝町、倉吉市関金町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：採取防止。山地の自然植生保護。林縁部のススキ、ササの管理。

■文献：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

ミヤマムグラ アカネ科

Galium paradoxum Maxim. subsp. *franchetianum* Ehrend. et Schönb.-Tem.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2010.7.9/撮影：坂田成孝

■選定理由：県内では東部のブナ帯山城、明るい林床に分布するが、分布域は限定されている。シカの食害が激しくなり、影響が懸念される。

■特徴：山地の林内に生育する多年生草本。茎は直立し高さ10-25 cm程度。葉は茎の下部では対生に近く、上部では4枚輪生となる。同じような場所にはえるオオバノヨツバムグラと比べると明らかな葉柄があり、葉の中央脈が目立つ。花期は7-8月、茎頂に短い花序を出し、数個の花をまばらにつける。花冠は白色、4裂、径は約2 mm。ミヤマムグラはシカの食害を受けることが報告（文献82）されており、影響が懸念される。

■分布 県内：若桜町。県外：北海道、本州、四国、九州。北東アジア。

■保護上の留意点：山地森林の保護、保全。

■文献：82.

執筆：永松 大